

IV MWS の活用のために

トータルパッケージを構成する個々のツールやグループワークの手法は、個別単独で用いても相応の効果を期待できますが、対象者の障害特性やニーズ、実施の目的に応じて、4つのツールや手法を選択的に組み合わせながら活用し、そこから得られた情報を相互関連的に整理・分析することによって、より効果的に機能をさせていくことができます。ですから、MWSを実施する際にも、M-メモリーノート、MSFASと組み合わせることで、障害の補完や作業遂行力の向上、ストレスや疲労に対する対処行動の獲得等に向けて、構造的な取り組みができます。

また、トータルパッケージに含まれるツール群だけではなく、過去の職歴や教育・訓練歴、医療的リハビリテーションの経過、各種神経心理学的検査や面接・相談等の各種情報とも照合しながら、個々のニーズについて有機的な検討を行い、適切な職業リハビリテーションサービスの提供につなげられます。

さらに、就労支援に係る関係機関との連携ツールとして活用することも可能です。

これらMWSとその他のツールとを組み合わせた活用方法についての詳細は、この資料と同じ時期に出された当機構の調査報告書 NO.93「特別の配慮を必要とする障害者を対象とした、就労支援機関から事業所への移行段階における就職・復職のための支援技法の開発に関する研究」とこの資料の姉妹編である「MSFASの活用のために」において、紹介されています。

今後も障害者職業総合センターにおきましては、昨今の障害の多様化に対応していくため、トータルパッケージの活用をベースとした支援技法と、トータルパッケージを介在させた地域就労支援モデルの構築に向けた方策を検討し、より質の高い職業リハビリテーションサービスの提供に寄与していけるよう努めていきます。

トータルパッケージに関連する障害者職業総合センター調査研究報告書等は以下の通りです。

障害者職業総合センター調査研究報告書No.55.
多様な発達障害を有する者への職場適応及び就業支援技法に関する研究(2003)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.57.
精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(最終報告書)(2004)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.64.
精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(活用編)(2004)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.73.
職業リハビリテーションにおける課題分析の実務的手法の研究(2006)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.74.
事業主、家族等との連携による職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(第1分冊 事業主支援編)(2007)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.75.
事業主、家族等との連携による職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(第2分冊 関係機関等との連携による支援編)(2007)
障害者職業総合センター トータルパッケージの活用のために(2007)
障害者職業総合センター調査研究報告書No.93.
特別の配慮を必要とする障害者を対象とした、就労支援機関等から事業所への移行段階における就職・復職のための支援技法の開発に関する研究(第1分冊 就職・職場適応支援編、第2分冊 復職・職場適応支援編)(2010)
障害者職業総合センター 幕張ストレス・疲労アセスメントシート MSFASの活用のために(2010)